

民法第三百四十九条外二条修正意見

(発行年 / Year)

1910

民法第三百四十九條外二條修正意見

一 民法第三百四十九條ハ質取立カ借用証書又ハ返還期前ノ
 別約ヲ以テ流シ質ヲ約シ居ル法律ニ定メル方法ニ依ラスレテ
 質物ヲ處分スルコトヲ禁シタルモノナレハ當時一般ノ行ハル、
 處、借用全証書又ハ通定賣却又ハ勝手ニ賣却云々ノ約又
 ハ他モ違ハル契約コレヲ當ニ其一部カ無効ナルトナラス
 債權全部ニ影響ヲ及スノ危險ナキ能ハストノ一説モ亦謂
 レナキニ非サルナリ何トナシハ從前質物處分ニ關スル法律
 ノ制定ナキ場合ニ於テ債權者カ耳認通定勝手ニ非道ノ
 處分ヲ爲シ債務者ノ不利ヲ歸スルヲ縱々之レアリレテ以
 テ畢竟債權者ノ專横ヲ抑ヘシカ爲メ本條ノ如キ規定ノ必
 要ヲ生スルニ至リテナレカ然レバ今ヤ既に質物ノ處分ニ關
 シテハ現行民法第三百七十一條第三百七十二條第三百七十三
 條ニ規定ノアルアリテ商事質ニ關シテハ該方法は從ハサルヘ
 カラサルコト勿論コレヲ適宜賣却ト云フハ即チ法律上規定
 ノ範圍内ニ於テ適宜處分スルノ意味ナリト解釈スルニ
 於テハ更ニ危險ノ虞ナキモノト信ス然レバ第十三條倉庫ハ
 般ノ高價値品賣却必ズ提當セラルヘシト聞知セリ而シテ其條
 正案ニ依レハ商事質ノ條項ハ全然削除シアルヲ以テ該條
 正案成立セシカ商事質權ノ條項ハ消滅シテ一定ノ習慣ア
 ルモノ外ハ一般法即チ民法ニ據ラサルヘカラサルニトナルヘシ
 然ル中ニ競賣ニ附スルノ一途アルノミ元來競賣法タル公平ハ
 即チ公平ナルヘシト最モ商事質ノ如キ偶々多數ノ物件ヲ一時
 ニ競賣ニ付スルノ場合ニ於テハ竟ニ市場ニ劇賣ヲ來シ質
 權者コレヲ機敏ノ處置ヲ爲サシムル能ハズ却チ双方ノ不利ヲ
 ニ歸スルニトミタルヘシ果シテ然ラバ偶々債務ナキ債權者ノ

專横ヲ折ヘカ爲ニ一般ノ不便ヲ来スニ至リテハ頗ル遺憾
ト認ムルハ得ヌ故ニ此項ノ如ク隨意契約ニ効力ヲ有セシメ
本条ヲ全然削除セラレシコトヲ希望ス

然リトモ此民法典ニシテ確定ノ今日ニ於テハ容易ニ修
正シ難キ事情アルハ已ムヲ得サル次第ナルヲ以テ本条ノ如
クモ現行商法第百七十五條第百七十三條第百七十三條ノ如ク
特種ノ事情アル商事質ニ関シテハ現行法同様商法修訂案
ニ特別ノ規定ヲ設ケラレ商事質ニ関スル便宜ヲ與ラレシ
テ希望ス是商法修訂ノ真意ニ協フモノナラシト信ス

一民法第百七十四條ニ記名ノ使役ヲ質物トナス場合ニハ第三
使務者ノ質權ヲ通知スルニ非シト完全ナル質權ノ効力ヲ定
ス尤モ記名株式等ニ之ヲ適用セストアリシモ此ノ如クナル件ハ
記名ノ使役ノ如キハ國庫ニ通知セザルヘカラスシテ遠隔ノ地方
ニアリテハ其不便ハ勿論之ヲ爲後々ノ煩雜ヲ惹起スルノミナ
ラス記名使役ヲ以テノ範圍ニ殆ト杜絶スルニ至ルヘケレハ本條第
二項ニ左ノ如ク修訂ヲ加ヘラレシヲ希望ス

前項ノ規定ハ記名ノ國債証券地方債証券社債券及株
券ニハ之ヲ適用セス

一民法第百七十五條ニ記名ノ社債券ヲ質物トナス場合ニハ其
會社ノ專帳ニ質入ノ旨ヲ登記スルニテアツサレハ第三者ニ對シテ
効力ナキコトヲ規定セリ而シテ現今ノ社債券ハ悉ク記名式ハ
レハ前條記名債券ト均シク手續ノ煩雜ヲ免レザルモ社債券
ハ終ニ担保トシテ流通ノ困難ヲ缺クニ至ルヘシ故ニ記名ノ株式ニ
對シ特例ヲ設ケアルカ如ク前條第二項修訂案ノ通りニ社債券
ヲ押入シ存條ヲ削除セラレシ事ヲ希望ス